

校名：静岡大学教育学部附属島田中学校

所在地：〒427-0041 静岡県島田市中河町 169 番地 電話番号：0547-35-6500

記載日： 年 月 日 記載者：窪野 清 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

本校は、全国で唯一、中学だけの単独附属学校である。学区がたいへん広く、西は磐田市から東は静岡市という県内広域から生徒が通っている。そのため、島田市を含む周辺の多数の小学校や地域教育委員会との連携が進んでおり、本校を核として大学と地域との協働に多大な貢献をしている。学校教育目標「高い知性・豊かな感性・強い信念」の下、知の側面だけでなく、優しい心やたくましい心身をバランスよく育成することをめざし、教育活動を展開している。

授業は、小集団による追究活動を中心に、学習課題に対する主体的な学びが深まったり、広がったりしていく。この主体性は、学校行事や学年行事でも遺憾なく発揮され、本校の一大行事である「ゆうかり祭」は、子ども達の主体的な活動が輝く地域でも評判を集める行事となっている。

こうした生徒の活躍を陰ながら支えているのが、若く意欲的な職員集団である。附属学校の使命である教育研究の面では、「主体性を高める授業過程」を研究テーマに掲げ、大学の先生方と連携しながら、各教科で先進的な教育研究を進めている。その一方で、地域の教員の資質・能力の向上、教育活動の推進に寄与することもめざしており、地域の公立小中学校をはじめ、地元にある公立高等学校との連携も進めている。

貴校の卒業生の活躍状況について：

つい先日、競泳のリオデジャネイロ五輪代表選考会を兼ねた日本選手権水泳競技大会で、本校の卒業生が初の五輪出場を決め、大きなニュースとなった。また、科学雑誌「ニュートン」の最新号にも本校卒業生の寄稿が、「シリーズ、脳とニューロン」として大々的に紹介されている。さらに、東京でプロのオペラ歌手として活躍している卒業生をキャリア教育の講師として迎えようとする計画も進んでいる。このように、本校卒業生は、体育・科学・文化、様々な分野で目覚ましい活躍をしている。

本校では、このような卒業生の活躍状況を学校として追跡調査をしているわけではないが、同窓会組織がしっかりしており、同窓生一人一人の情報を集約し、同窓会名簿としてまとめてくれている。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

本校勤務経験者の多くが、一旦地元の公立学校へ戻った後、県や市の事務局（県教委や教育事務所、市町教育委員会）へ入り、教員を指導したり学校を管理する立場として活躍してきた。その後最終的には、公立学校へ管理職（校長や教頭）として戻る先生が非常に多い。客観的なデータを調べてみると、本校勤務経験者の8割以上の先生が公立小中学校の管理職となっていることがわかった。

本校には、本校勤務経験者で構成する組織（ゆうかり会）があり、毎年1回交流の場をもち、情報交換を行っている。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

(1) 教科研究における公立学校との連携

① 研究協力員との連携

毎年、教科ごと、地域の公立小中学校の中から「研究協力員」を選考し、教科研究の協力をいただいている。年度初めに教科テーマや研究内容に係る協議を行い、1年間の研究の方向性を共有した上で、本校の授業を参観していただいたり、逆に研究協力員の学校に出向いて授業を見せていただいたりしながら、研究内容を深めている。

また、発表会当日には、協議会の進行をお願いしたり、自校での実践を紹介していただいたりして、本校と公立学校とのつなぎ役を果たしていただいている。

さらに、発表会後には、再度協議の場をもち、公開授業の内容や協議会での話題を振り返りながら、今年度の成果と課題を明らかにし、次年度につなげていく。

② 公立中学校教員との学習会（授業を語る会）

勤務時間外であるが、地域の公立学校の先生方に呼びかけて自主的な教科研修会（学習会）を開いている教科がある。昨年度は、数学と理科、体育科が実施をした。年3～5回程度、参加者が、教科指導の悩みを聞きあったり、授業実践を紹介しあったりするなど、たいへん中身の濃い学習会となっている。教科によっては、大学の共同研究者を講師として招き、講話をいただいた例もあった。

また、本校教員が主催者として公立学校教員を招き入れるだけでなく、社会科は地域の教科研修会に一参加者として出向き、ともに研修（教科研究）を深めている。

(2) 学校行事の充実

① 旅行的行事

本校では、毎年4月中旬に学年ごと旅行的行事を組んでいる。3年生は、3泊4日の沖縄への修学旅行、2年生は、2泊3日の明日香村での宿泊体験学習、1年生は日帰りでの「大学めぐり」、「島田めぐり」、「防災体験学習」である。どの行事も、新学年・新学級の仲間づくりを目的に、4月中旬に同時並行で展開している。

沖縄への修学旅行は、平成12年にスタートし、今年で17回を数えた。一番のねらいは、平和学習である。沖縄は、終戦末期、米軍の上陸を許し、日本で唯一の地上戦が展開され、一般住民を含む20万人以上の犠牲者を出した。ひめゆり学徒隊に代表される今の中・高生と同世代の若者が戦争に借り出され、悲惨な運命を遂げた。そんな不運な若者たちの悲劇から「戦争の惨たらしさ」や「平和の愛おしさ」、「命の大切さ」を学ばせたいという願いで、「ひめゆりの塔」の前で始めた「平和集会」も、毎年続いている。今年は、その「平和集会」に、ひめゆり学徒隊の生存者であり、現「ひめゆり平和祈念資料館」の館長をされている島袋さんに参加いただき、温かいお言葉を頂戴した。

なお、富士山静岡空港の開港以来、沖縄（那覇）との行き来ががたいへん楽になり、移動にかかる時間は、京都・奈良への旅行とほとんど変わらない。

また、2年生の、「キャリア教育」のねらいも持たせた宿泊体験学習は、平成13年から続いている。当初は、「妻良」という伊豆の小さな漁村での漁業体験をメインとしたプログラムであった。その後、行き先は「明日香村」に変わったものの、キャリア教育のねらいは変わらないままである。

②「ゆうかり祭」(文化発表会)

毎年秋に、地域の大きな会場を借り切って行う文化発表会が「ゆうかり祭」である。本校は、「あいさつと歌声が響く学校」を目指す学校像の一つに挙げ、普段から合唱に力を入れている。その晴れ舞台がこの「ゆうかり祭」である。会場には、保護者はもちろん、多くの地域の方々も足を運んでくださり、生徒たちは、練習を重ねてきた「学級合唱」、「学年合唱」、「全校合唱」を「合唱の部」として披露する。

また、生徒が自分の個人的な特技を事前のオーディションを経て披露する「有志の部」も、合唱と並ぶ「見もの」である。昨年度は、ピアノ演奏・エレクトーン演奏・空手道(形)・一輪車演技・オペラ歌唱と実にバラエティに富んだ特技が披露され、大歓声を集めた。

(3) P T A活動の充実

本校の保護者は、学校の教育活動に対し大変関心が高く、協力的である。毎年平日に年数回行うP T A奉仕作業や授業参観会、保護者懇談会の参加率は、毎回90%を超える。P T Aの事業もたいへん充実しており、一流の講師を招いて行う「P T A研修会」(昨年度：東京大学 薬学部教授、脳科学者 池谷裕二氏)、各家庭や地域から寄付していただいた物品を格安なお値段で販売する「P T Aバザー&オークション」は人気の行事である。そんな熱心な活動が認められ、昨年度は、県のP T A連絡協議会から表彰された。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

(1) 島田市(学校所在地)の職員研修の場として

島田市教科等指導員の先生方に研修の場を提供したり、島田市教育研究会の研修に参加したりすることで、島田市内の先生方と教科指導力の向上を図っている。

① 島田市教科等指導員研修会の実施

○開催日：毎年5月末頃(H28年 5月26日)

○会場：本校

○内容

- ・本校教諭による授業を公開する。
- ・島田市教育委員会と教科等指導員を中心に全体協議会をもつ。
- ・教科別協議会については、公開授業についての協議を中心に教科ごと行う。

② 島田市教育研究会 教科別一斉研修会への参加

○開催日：毎年8月上旬(H28年 8月1日)

○会場：市内各小・中学校(教科別)

○内容

- ・教科代表者による授業を参観する。
- ・授業後、公開授業についての協議を中心に協議会をもつ。

(2) 中高連携の拠点校として(県立島田高等学校との連携)

中学校、高等学校にそれぞれに勤める教員が授業や教材づくりなどの情報交換をとおして、互いの力量を高め、自校のまたは自分の教科の指導力向上を図っている。

① 本校を会場にした教科別合同研修会

○開催日：教科別に毎年6月～7月に実施（H27年 6月15日～7月10日）

○内容

- ・本校教諭による授業を公開する。
- ・授業後、公開授業や本校の研究の方向性等について協議会をもつ。

○昨年度の高校からの参加者

国語（1名）、社会（1名）、数学（2名）、理科（2名）、英語（2名）、体育（1名）

② 県立島田高等学校を会場にした合同研修会

○開催日：毎年11月頃（H27年 11月13日）

○内容

- ・高校教員による授業を参観する。
- ・授業後、公開授業や両校の研究の方向性等について協議し、連携の接点を探る。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について

(1) 静岡大学教育学部の附属学校として

① 「連携と貢献」をキーワードにした教育研究の推進

ア 共同研究者と連携した先進的な教育の推進

イ 教科研究の魅力や地域の先生方に参考となる情報の発信・授業公開

- 発表会での公開授業
- 研究協力員の授業の参観
- 授業を語る会
- 地域の授業研究会、指定研究発表会への参加

ウ 自己研さんのための研究

- 他大学の附属学校の研究発表会の参観
- 各種学会への参加（共同研究者との連携）
- 教育界の動向の研修（教科調査官等、国レベルの助言者との連携）

② 「連携と育成」をキーワードとした後進の養成

ア 教育実習

- 教職の魅力、やり甲斐（厳しさ、責任の重さ）
- 授業づくりの基本・・・つけたい力の明確化、指導と評価の一体化
- 基本的な授業技術・・・指名、板書、発言の受け止め方

イ 大学院生・大学生の研究への協力

(2) 地域の教員研修の拠点校として（前述）

① 島田市の教員との連携

- 島田市教科指導員に研修の場を提供
- 島田市教育研究会 教科別一斉研修会への参加

② 地域の公立学校教員との連携

- 研究協力員を交えた教科研究
- 公立中学校教員との自主学習会（授業を語る会）の実施

③ 地元の県立高校との連携

- 県立島田高等学校との共同研修会の実施